

## 《研究ノート》

儀礼的方略としてのアラビア語  
エジプト方言“maʕliʃ”<sup>1</sup>の使用

谷口龍子(東京外国語大学)

榮谷温子(東京外国語大学)

## 1. はじめに

本稿は、アラビア語エジプト方言で使われる“maʕliʃ”の語用論的機能について、ポライトネスならびに社会的相互作用の視点から考察するものである。

“maʕliʃ”は、正則アラビア語(フスハ)では使われないが、エジプト方言(アンミーヤ)による日常会話では頻繁に聞かれる表現である。“maʕliʃ”について、辞書には、① I never mind, don't worry about it. ② sorry! excuse me!(『A Dictionary of Egyptian Arabic』 Librairie du Liban 1986)と記述されており、相手の行為に対する受け入れと自分の行為についての詫びという相反する用法を有することになる。

本研究は、ポライトネス(Brown and Levinson(1987))ならびに Goffman(1971)による社会相互作用という視点から“maʕliʃ”の語用論的機能について包括的に探ることを目的とする。このように分析することが、アラビア語と日本語の対照研究や言語教育への貢献になると考えるからである。本稿は、そのための実証的資料を提供するものである。

## 2. 先行研究の概観

これまで“maʕliʃ”は、詫び表現の一種として研究されることが多かった。近年のアラビア語に関する詫び研究は、談話完成テスト(以下 DCT)によりデータを取り、使用状況やジェンダー差による詫びストラテジーの相違についての分類が多く見られ(Bataineh & Bataineh(2008)、Nureddeen(2008)など)、“maʕliʃ”は他の詫び表現とまとめて分析されている。これらの研究は発話行為理論に基づくものであり、詫びという一つの発話内行為(Austin(1975)、Searle(1986))で括っていることから、“maʕliʃ”とその他の詫び表現との違いや詫び以外の使い方についての考察がほとんど行われていない。

言語表現による機能の相違に言及しているものは寡少だが次の研究が挙げられる。

Y.Samarah(2010)では、8種類の詫び表現について、社会的要素により分類し、“maʕliʃ”は、

1 IPA(International Phonetic Alphabet)による。本稿では、翻訳による誤解を防ぐために“maʕliʃ”のみをIPAで表示する。

いずれの階層でも使われるが、公的な場では比較的使用されず、誠実さが低い<sup>2</sup>という結果が出ている。誠実さが低い、すなわち本気度が低いということは「詫び」以外の機能を有するということにもつながるであろう。また、谷口・榮谷（2011）は、アラビア語エジプト方言の詫び表現や感謝表現の使い分けについて概観し、“maʕliʃʃ”がFTA(Face-threatening acts)（FTAについては3章で説明）の前に使われることに言及しているが、詳細な分析には至っていない。

### 3. 調査方法について

これまでの研究に多く使われたDCTによる調査では、話し言葉を回答シートに書き込むことになり、アラビア語のように正則アラビア語（フスハ）とアラビア語の各種方言（アンミーヤ）の区別が明確である言語では正確なデータが採取できるとは言い難い。

そこで、より自然談話に近いデータを収集するために、ロールプレイの手法を取り入れることにした。

Brown and Levinson(1987)は、Goffman(1967)のフェイス(face)という概念を取り入れ、人には次のような二つのフェイスが存在するとしている。

- a. ポジティブ・フェイス(positive face): 縄張り、個人的領分、邪魔されない権利—つまり、行動の自由と負担からの自由—に対する基本的要求
- b. ネガティブ・フェイス(negative face): 相互行為者(interactants)が求める肯定的な、一貫した自己イメージ、つまり「人格」(重要なのは、この自己イメージが評価され、好ましく思われたいという欲求を含んでいることである)<sup>3</sup>

そして、これらのフェイスを脅かす行為をFTA(Face-threatening acts)とし、FTAへの配慮として、ポジティブ・ポライトネス並びにネガティブ・ポライトネスを挙げている。相手に対する誘い、依頼や要求は、ネガティブ・フェイスを脅かすものになり、相手からの依頼や要求を断る行為はポジティブ・フェイスを脅かす行為と考えられる。またBrown and Levinson(1987)では、FTAを緩和するネガティブ・ポライトネス(negative politeness)の方策の一つとして“Apology”が挙げられ、これまでの研究で、日本語の「すみません」や中国語の“不好意思”(=すみません)などの表現が、依頼、断りの場面で使用されることが指摘されている(blum-Kulka他(1989)、柏崎(1993)、生駒・志村(1989)等)。アラビア語の詫び表現にも同様の機能を有する可能性があることから、ロールプレイにFTAの場面を設定する。また、大浜(1997)等では、会話終了部分に詫び表現が使われていることから、会話の開始や終了場面も設定することにした。

調査対象は、ジェンダー差、職業や宗教をほぼ同一にし、すべて成人男性でホテル従業員

2 (-serious)と表示されている。

3 Brown and Levinson (1987[1978])の邦訳『ポライトネス 言語使用における、ある普遍現象』田中典子監訳、研究社、2011:79)による。

のカイロ在住者とした。

2010年8月から9月にかけて、ロールプレイによる談話データを合計24件収録した。発話は、ICレコーダーで録音し、アラビア語の母語話者ならびにアラビア語の文法研究者の共同作業により、アラビア語に文字化した。設定場面は次のとおりである。

- ①「誕生パーティーの誘いと承諾」(親しい者同士)
- ②「講義の録音依頼と断り」(親しい者同士)
- ③「映画鑑賞の誘いと断り」(親しい者同士)
- ④「隣人の騒音に対する苦情」(隣人同士)
- ⑤「パーティでの会話(開始時と終了時を中心に)」(親しい者同士)
- ⑥「道を尋ねる」(知らない者同士)

#### 4. 分析

調査の結果、総時間数約40分の録音データが記録され、9場面(パーティ1件、依頼1件、誘い7件、苦情11件、道2件)から22件の“maʕliʃʃ”が抽出できた。

表1)は、“maʕliʃʃ”が使用された場面、発話者の役割と発話の日本語訳である。

表1)

場面	発話者	発話例
1	依頼者	「maʕliʃʃ 私ははそれに出席することができませんでしょう。・・・録音ができますか?」
2	被依頼者	「maʕliʃʃ 残念ながら、私はそれに出席することができないだろう。」
3	被依頼者	「maʕliʃʃ 時間がぜんぜんない。なぜなら、私は空港へ行くところだから。」
4	被依頼者	「maʕliʃʃ 空港へ行くんだ。というのも、友達一人が、が空港から来る予定があるんだ。」
5	被依頼者	「maʕliʃʃ だって仕方がない。」
6	被要求者	「忘れるなよ、おじさん」「maʕliʃʃ 「というのも私は約束のすっぽかしを経験済みだから」
7	苦情を言われる側 苦情を言う側	「maʕliʃʃ 試験があるとは知らないのぞ」 「maʕliʃʃ」
8	苦情を言う側	「maʕliʃʃ もし私に明日試験がなかったのなら、早起きするであろうことになかったら、私はあなたと一緒にこの美しい機会に祝ったのになあ。」
9	苦情を言う側	「maʕliʃʃ 私はあなたの隣人だ。カセットを少し絞って欲しい。」
10	苦情を言われる側	「maʕliʃʃ アブー・ユーセフ(呼び名)、すみません。」
11	苦情を言う側	「maʕliʃʃ 私は学生だ。試験のために勉強したい。」
12	苦情を言う側	「maʕliʃʃ カセットを少し絞ってくれ。」
13	苦情を言われる側	「maʕliʃʃ アシュラフ(呼び名)、すみません。」
14	苦情を言われる側	「maʕliʃʃ われらの主があなたとともにいますように。」
15	苦情を言われる側	「maʕliʃʃ われらの主が。」
16	苦情を言う側	「maʕliʃʃ 君たちの音をちょっと下げて。」

17	苦情	苦情を言われる側	「maʕliʃʃ maʕliʃʃ あなたの権利は我々の上に。誠に申し訳ありません。」
18	パーティ	主催者側	「準備ができていないのだ。 maʕliʃʃ」
19	道	道を探ねる側	「maʕliʃʃ 私はどこから入るんですか。もう一回（言ってください）。」
20	道	道を探ねる側	「maʕliʃʃ もう一度だけ、私は入る## <sup>4</sup> の横から##ハーディーズの##そして##」
21	道	道を探ねる側	「maʕliʃʃ 私はあなたを働かせなくしてしまった。」

依頼や苦情を言う場面において、依頼する側と依頼される側、また苦情を言う側と苦情を言われる側の両者ともに“maʕliʃʃ”を使用している。データのうち、パーティーの開始時や終了時に“maʕliʃʃ”は使われていなかった。

“maʕliʃʃ”を含む談話を意味公式（Beebe 他(1990)等）でコーディングしたものが表2)である。話の流れがわかるように談話全体を記述し、行為の中心部分（Head act：Blum-Kulka 他1989）を基準に“maʕliʃʃ”の暫定的な機能も分類した。

表 2)

機能	発話者	意味公式
詫び	苦情を言われる側	maʕliʃʃ - {呼びかけ} - {謝罪} - {言い訳} - {行為の宣言}
詫び	パーティー主催者	{祈り} - {理由} - maʕliʃʃ
詫び	道を聞く側	{感謝} - maʕliʃʃ - {理由}
詫び 受け入れ	苦情を言う側 A 苦情を言われる側 B	A: maʕliʃʃ - {言い訳} / B: maʕliʃʃ /
受け入れ	苦情を言う側	maʕliʃʃ - {仮説}
要求の前置き	苦情を言う側	{祈り} - maʕliʃʃ - {要求} - {理由}
要求の前置き (A) 要求の前置き (A)	苦情を言う側 (A) 苦情を言われる側 (B)	A: maʕliʃʃ - {理由} - {希望} / B: {不理解の表明} / A: maʕliʃʃ - {要求} / B: {確認} /
詫び (B)		A: {要求} / B: {詫び} - {言い訳} / A: {要求の言い訳} / B: maʕliʃʃ - {呼びかけ} - {謝罪}
依頼の前置き	依頼者	maʕliʃʃ - {理由} - {依頼}
確認の前置き	道を聞く側	maʕliʃʃ - {確認}
ごまかし (B) ごまかし (B)	苦情を言う側 A 苦情を言われる側 B	A: {要求} / B: maʕliʃʃ - {祈り} / A: {要求} / B: maʕliʃʃ - {祈り} / A: {要求} / B: {祈り} /
要求の前置き (A)		A: {呼びかけ} / B: {祈り} - {謝罪} / A: {祈り} - maʕliʃʃ - {要求} / B: {了解} / A: {要求} /
詫び (B)		B: maʕliʃʃ - maʕliʃʃ - {謝罪} - {祈り} - {謝罪}

4 聞き取り不能。

質問繰り返しの前置き	道を聞く側	maʕliʃʃ - {質問} - {依頼}
断り	誘われる側	{断り} - maʕliʃʃ - {断り} - {理由}
断り (B)	誘う側 A 誘われる側 B	A: {誘い} /
断り (B)		B: {祈り} - maʕliʃʃ - {断りの理由} /
断り (B)		A: {誘いの理由} /
断り (B)		B: maʕliʃʃ - {断りの理由} /
		A: {要求} /
		B: maʕliʃʃ - {断りの理由}

#### 4.1 FTAの緩和

データのうち、要求、依頼、断り、確認など FTA の前置きとして “maʕliʃʃ” が使われていた。次の例は、友人からの頼み事に対して、空港に行かなければならないという理由で断る場面である（下線は “maʕliʃʃ” の部分）。

例1)

ع: أنا عايز أسألك يعني، عملت إيه في المحاضرات الـ... الـ... الـ... فانتنا؟  
 ص: والله، أنا دلوقتى معلش، ما عنديش وقت خالص لأن أنا طالع عالمطار.  
 ع: لا، ده لازم، يا عم.  
 ص: معلش، طالع عالمطار عشان في واحد صديق جاي من المطار، هاروح أجيبه وأجي، وبعد  
 كده، هابقى اتكلم معاك.  
 ع: لا، ماينفعش.  
 ص: معلش، عشان الظروف.  
 ع: المحاضره اللي هتفوت مش هترجع تاني.

(日本語訳)

アーテフ「私はあなたに尋ねたい。つまりこの前の講義をあなたはどうしましたか。」  
 サブリ「アッラーに誓って 私には今 maʕliʃʃ 時間がぜ～んぜんない。なぜなら、  
 私は空港に行くところだから。」  
 アーテフ「いや、これは義務だ。」  
 サブリ「maʕliʃʃ 空港へ行くんだ というのも友達が空港から来る予定。私は行って  
 彼を連れてくる。そのあと、あなたと話をする。」  
 アーテフ「いや そんなのダメだ。」  
 サブリ「maʕliʃʃ だって仕方がない。」  
 アーテフ「過ぎた講義は、二度と戻ってこないよ。」

次の例は、道を教えてもらった者が道順を確認する場面であり、ここでも “maʕliʃʃ” が使われている。

## 例2)

م: آه معلش، أخشّ منين تاني؟ أنزل ميدان التحرير، واسأل فين ميدان طلعت حرب؟ ولّا أنا .. فين بالطبط؟  
ك: لأ، إنت مثلا تنزل ميدان التحرير، وتسال عن مطعم هارديز.

## (日本語訳)

ムハンマド「ああ “mafliḡf” 私はどこから入るんですか。 もう一回（言ってください）私がタハリール広場に出ます。 そして私はタルアトハルブ広場がどこか尋ねます。 それとも私は・・・正確にどこですか。」  
カラム「いいえ、あなたはたとえば、タハリール広場に出ます。 そしてハーティーズレストランについて聞きます。」

## 4.1.1 談話標識としての “mafliḡf”

談話標識 (discourse marker) の主な機能は、従来の談話と談話を論理的につなぐこととされているが、加藤 (2004:228) は、「発話の事前状況についての話者の認識を示すもの」も挙げている。

次の例は、隣人が出す騒音に対してボリュームを下げることを要求する場面である。

## 例3)

أ: آه، محمد!  
م: أيوه، أشرف.  
أ: معلش، أنا طالب في المدرسه، وعاوز أذاكر عشان الامتحانات.  
م: مش فاهم.  
أ: مش فاهم؟ أنا عاوز أذاكر عشان امتحانات معايا، امتحانات بكره.  
م: أجي أذاكر لك أنا.  
أ: لا. معلش، اوّط الكاسيت شويه.  
م: آه، اوّط الكاسيت.  
أ: آه... اوّط الكاسيت.  
م: أنا آسف. ما كنتش أعرف إن عندك امتحان، والله، يا أشرف.  
أ: عشان الشقه قدام الشقه مش قادر أذاكر عشان الصوت عالي.  
م: عارف، عارف، عارف، معلش، يا أشرف. أنا آسف.

## (日本語訳)

アシュラフ「あー ムハンマド。」  
ムハンマド「はい アシュラフ。」  
アシュラフ「mafliḡf 私は学校の学生だ 私は試験のために勉強したい。」  
ムハンマド「わからない。」  
アシュラフ「わからない？ 私は試験が 明日試験があるので勉強したいんだ。」

ムハンマド「一緒に勉強してあげようか。」  
 アシュラフ「いいえ、maʕliʃf カセットを少し絞ってくれ。」  
 ムハンマド「ああ カセットを絞る。」  
 アシュラフ「ああ カセットを絞って。」  
 ムハンマド「すみません。私はあなたに試験があるとはアッラーに誓って知らなかったんだ。アシュラフ。」  
 アシュラフ「フラットの音がフラットだから(=家と家が近すぎるから)、高い音のために私は勉強ができないんだ。」  
 ムハンマド「わかる、わかる、わかる maʕliʃf アシュラフ、すみませんでした。」

アシュラフ「maʕliʃf 私は学校の学生だ 私は試験のために勉強したい」のように、この位置で“maʕliʃf”を使用することにより、挨拶談話から要求談話という別の談話への移行を示すと同時に、要求談話がFTAであることを話し手が認識していることを示している。さらに、「maʕliʃf カセットを少し絞ってくれ」のように、この談話の核心部分である直接的な要求行為の直前に再度“maʕliʃf”を使用している。つまり、“maʕliʃf”は、談話標識としてFTA談話への移行を表示する役割と、要求というFTA行為そのものの前置きという二種類の使われ方をしていることになる。

#### 4.2 詫びと受容

前述したように、“maʕliʃf”には、詫びと受容という一見すると相反する意図を有している。次の例は、騒音を出したことを“maʕliʃf”と詫び、隣人も“maʕliʃf”で返している場面である。

例4)

ك: أه وطّيه شويه.  
 م: معلش، أنا آسف أنا ما عرفش إنت عندك امتحان.  
 ك: معلش.

(日本語訳)

カラム「ああ、ちょっと下げてくれ。」  
 ムハンマド「maʕliʃf すみませんでした。私はあなたに試験があるとは知らないのです。」  
 カラム「maʕliʃf」

ムハンマドは“maʕliʃf”に詫び表現“ana āsif”を連続させることで深い詫びを示し<sup>5</sup>、カラムはそれに“maʕliʃf”と答えている。“maʕliʃf”で答えることにより、ムハンマドの行為が許され、両者の関係が修復され対等な関係に戻ったと言えよう。

5 谷口・榮谷(2011)では、詫び表現の繰り返しについて、“maʕliʃf”に“ana āsif”が続き深い詫びを示すことはあるが、反対に“ana āsif”が“maʕliʃf”に続くことはない点を指摘している。このことから、“maʕliʃf”が会話終了の機能を持たないことが推察される。

#### 4.3 ごまかしの “maʕliʃf”

詫び表明とも詫びの受容とも解釈できないところで “maʕliʃf” が使われている。

次の例は、隣人の騒音に対して苦情を言う場面であるが、苦情を言われた相手が “maʕliʃf” で応答し、祈りの言葉をつづけている。

例5)

ص: إنت عارف بقى عيد ميلاد وكل سنه وإنت طيب.  
 ع: يا عم، كل سنه وإنت طيب بس برضه بهدوء عشان ... عشان العيال وعشان خاطر امتحانات الصبح.  
 ص: معلىش، ربنا ... ربنا معاكو.  
 ع: يعني إحنا عيد ميلاد وكل حاجه، ماقناش ... ماقناش حاجه غلط.  
 ص: ربنا ...  
 ع: بس الناس برضه تراعي بعضيها.  
 ص: معلىش ربنا...  
 ع: ما ينفعش كلام رد.  
 ص: ربنا ينجحك كده

(日本語訳)

サブリ「では、あなたは誕生日を知っている。毎年あなたが良くありますように。」  
 アーテフ「おじさんよ、毎年あなたがよくありますように。とはいえやはり、静かに。子供たちのために、朝の試験のために。」  
 サブリ「maʕliʃf 我らの主が、我らの主があなたとともにいますように。」  
 アーテフ「お誕生日はすべてだ。私たちは言わなかった 私たちは何も間違ったことは言わなかった。」  
 サブリ「我らの主が、」  
 アーテフ「だけど人々はやはりお互いのことを考えるんだ。」  
 サブリ「maʕliʃf 我らの主が、」  
 アーテフ「返しことばなどダメだ。」  
 サブリ「我らの主があなたを成功させてくださいますように。」

アーテフからの苦情と要求にサブリは従わず、“maʕliʃf” に祈りの言葉を続けるばかりで関係の公理に違反している (Grice(1989))。しかし、相手の要求に従わずとも決して相手と対立したいわけではなく、相手との平和的な関係を維持しつつその場をごまかそうとする意図が窺える。

#### 4.4 自分の利益は相手の負担

中田 (1989:202) は、日本語では、相手の行為で恩恵を受けた場合でも謝罪表現を使うことがあることから、自分のプラスと相手のマイナスを自動的に結びつける傾向が強い点を指摘しているが、“maʕliʃf” にも同様の使用がある (谷口・榮谷 (2011) で既出)。



次の例では、道を教えてもらった側が感謝すると同時に、相手に時間を浪費させたことを詫びている。

例6)

ك: تمشي على طول.  
 م: هو ده شارع طلعت حرب؟  
 ك: طلعت حرب، أيوه.  
 م: متشكر قوي يا أستاذ. معلش أنا عطلتك.  
 ك: تحت أمرك. أي خدمة.  
 م: متشكر قوي.

(日本語訳)

カラム「まっすぐ歩くんです。」

ムハンマド「それがタルアトハルブ通りですか。」

カラム「タルアトハルブ、はい。」

ムハンマド「本当にありがとう 教授よ。maʕliʃf 私はあなたを働かせなくしてしまっ  
 た。」

カラム「あなたの命令の下にどのようなサービスでも。」

ムハンマド「本当にありがとう。」

## 5. 儀礼的方策としての“maʕliʃf”の使用(まとめ)

これまで見てきたように、“maʕliʃf”はFTAを緩和することで相手との修復を図り、“maʕliʃf”と詫び、“maʕliʃf”と答えることで相手の詫びを受け入れる。また、相手の要求に従わない場合であっても真っ向から対立することなく、“maʕliʃf”ではぐらかし、何とか相手との平和的な関係を維持しようと努める。さらに、相手の行為に感謝するばかりでなく、相手への負担に配慮することによっても関係維持に努めようとする姿勢が見られた。これらは同じ詫び表現である“ana āsif”が持たない機能である<sup>6</sup>。

Goffman(1971)では、社会生活において慣習的に繰り返される詫びが人間関係の不均衡を修復するために取る儀礼的方略の一つと見ることができるとしている。

アラビア語のエジプト方言においては、“maʕliʃf”が関係維持の儀礼的方策として重要な役割を果たしていると言えよう<sup>7</sup>。

6 “maʕliʃf”の機能の区別は、音調や繰り返しの有無と関わりがあるようなので今後の課題としたい。

7 日本語では「すみません」(谷口2009)、タイ語では「マイペンライ」(堀江1995,2000)が関係維持の儀礼的方策としての役割を果たしていると思われる。しかし、機能の分類についてはそれぞれ異なりが見られる。

アラビア語文字化資料の確認・校正にあたり、カイロ大学のアハマド・ハーネム先生にご協力いただきましたことを感謝申し上げます。

## 参考文献

- Austin, J.L. (1975) *How to Do Things with Words*. Cambridge: Harvard University Press.
- AL-Adaileh Bilal A. (2011). When the strategic displacement of the main topic of discussion is used as a face-saving technique: Evidence from Jordanian Arabic. *Journal of Politeness Research*, pp.239-257.
- Bataineh Rula Fahmi, Bataineh Ruba Fahmi (2008). A cross-cultural comparison of apologies by native speakers of American English and Jordanian Arabic. *Journal of Pragmatics*, 40, pp.792-821.
- Beebe, Leslie M., Tomoko Takahashi, and Robin Uliss-Welt (1990) Pragmatic transfer in ESL refusals. In Scarcella, Robin C., Elaine S. Anderson, and Stephen D. Krashen (eds.) *Developing communicative competence in a second language*. Boston, Mass.: Heinle & Heinle Publishers. pp.55-73.
- Blum-Kulka Shoshana, House Juliane, Kasper Gabriele (1989). *Cross-cultural pragmatics: requests and apologies*. Norwood, NJ Ablex
- Brown Penelope and Levinson Stephen (1987{1978}). *Politeness: Some Universals in language usage*. Cambridge University Press. (田中典子監訳『ポライトネス 言語使用における、ある普遍現象』研究社 2011:79)
- Coulmas, F. (1981) Poison to Your Soul: Thanks and Apologies Contrastively Viewed. *Conversational Routine*, The Hague Mouton, pp.69-91.
- Eisenstein Miriam, W. Bodman Jean (1986). I Very Appreciate': Expressions of Gratitude by Native and Non-native Speakers of American English. *Applied Linguistics*, Col.7, No.2, Oxford University Press, pp.166-185.
- Farghal Mohammed. (1995). The pragmatics of 'inšālah' in Jordanian Arabic. *Multilingua* 14-3. pp.253-270.
- Goffman Erving (1967) *Interaction Ritual*. Pantheon Books, New York.
- ゴッフマン・アーヴィング著 浅野敏夫訳 (2002)『儀礼としての相互行為』法政大学出版局
- Grice Paul (1989) *Studies in the Way of Words*, HUP. (清塚邦彦訳『論理と会話』勁草書房、1998)
- Gu. Y. (1990) Politeness Phenomena in modern Chinese. *Journal of Pragmatics*, 14(2), pp.237-257.
- 橋元良明 & 異文化コミュニケーション研究会 '91 (1992) 「婉曲的コミュニケーション方略の異文化間比較」『東京大学社会情報研究所 調査研究紀要 No.1』東京大学社会情報研究所
- 林明子 (1999) 「会話展開のためのストラテジー—「断り」と「詫び」の出現状況と会話展開上の機能—」『東京学芸大学紀要2部門』(東京学芸大学) 50, pp.175-188.
- Haugh Michael, Hinze Carl (2003) A metalinguistic approach to deconstructing the Concepts of

- 'face' and 'politeness' in Chinese, English, Japanese. *Journal of Pragmatics* 35 pp1581-1561.
- 彭国躍 (1991) 「『詫び』行為の遂行とその社会的相関性について—一日中比較社会語用論的視点から—」第101回大会研究発表要旨『言語研究』(日本言語学会) 99号, pp156-157.
- (2005) 「現代日本語の詫び発話行為の類型と機能」『日本語学』(明治書院) 4月号 vol.24, pp78-90.
- 堀江・インカピロム・プリアー (1995) 『国立国語研究所研究報告111日本語と外国語の対照研究Ⅱマイペンライ—タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察 その1—』国立国語研究所
- (2000) 『日本語と外国語の対照研究Ⅷマイペンライ—タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察 その2—』国立国語研究所
- Ide Risako (1998) 'Sony for your kindness': Japanese interactional ritual in public discourse. *Journal of Pragmatics*, 29, pp509-529.
- 井出里咲子 (2005) 「スモールトークとあいさつ—会話の潤滑油を超えて」『異文化とコミュニケーション』ひつじ書房
- 生駒知子・志村明彦 (1993) 「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー『断り』という発話行為について」『日本語教育』79号  
日本語教育学会
- 柏崎秀子 (1992) 「話しかけ行動の談話分析—依頼・要求表現の実際を中心に」『日本語教育』79号
- 加藤重広 (2004) 『日本語語用論のしくみ』研究社
- 熊取谷哲夫 (1988) 「発話行為理論と談話行動から見た日本語の「詫び」と「感謝」」『広島大学教育学部紀要』(広島大学) 第2部第37号, pp223-233.
- (1993) 「発話行為対照研究のための統合的アプローチ—日英語の「詫び」を例に—」『日本語教育』(日本語教育学会) 79号, pp26-40.
- (1994) 「発話行為としての感謝—適切性条件、表現ストラテジー、談話機能」『日本語学』(明治書院) 7月号 vol.13, pp63-72.
- Michael Haugh, Carl Hinze (2003) 'A metalinguistic approach to deconstructing the Concepts of 'face' and 'politeness' in Chinese, English, Japanese' *Journal of Pragmatics* 35, pp 1581-1561.
- 宮地裕 (1995) 「依頼表現の位置」『日本語学』(明治書院) vo.14 10月号, pp4-11.
- 三宅和子 (1994a) 「『詫び』以外で使われる詫び表現—その多様化の実態とウチ・ソト・ヨソの関係—」『日本語教育』(日本語教育学会) 82号, pp134-146.
- 森山卓郎 (1990) 「『断り』の方略—対人関係調整とコミュニケーション」『言語』19巻8号 大修館書店
- (1999) 「お礼とお詫び—関係修復のシステムとして」『國文學—解釈と教材の研究』(学灯社) 第44巻第6号, pp78-82.
- 中田智子 (1989) 「発話行為としての詫びと感謝」『日本語教育』(日本語教育学会) 68号, pp191-203.
- 西村啓子 (1981) 「感謝と謝罪の言葉における『すみません』の位置」『日本文学ノート』(宮城女学院女子大学日本文学会) 第16号

- 西野容子 (1993) 「会話分析について—ディスコースマーカーを中心として」『日本語学』(明治書院) vol.12 5月号, pp89-96.
- Nureddeen Fatima Abdurahman.(2008).Cross cultural pragmatics:Apology stratejies in Sudanese Arabic. *Journal of Pragmatics* 40.pp.279-306.
- 大浜るい子 (1997) 「日本語による会話終了のメカニズム解明のための予備的考察」『広島大学教育学部紀要』(広島大学) 第二部第46号、pp159-167.
- Owen,Marion (1983). *Apologies and Remedial Interchange*, New York:Mouton.
- 酒井良枝 (1979) 「『すみません』の用法について」『昭和学院国語国文』第12号 昭和學院短期大学國語國文学會 ,pp 119-128.
- 佐久間勝彦 (1983) 「感謝と詫び」『講座日本語の表現3 話しことばの表現』筑摩書房、pp54-66.
- Searle,J.R. (1969) *Speech Acts: An essay in the philosophy of language*, Cambridge Univ.Press.
- (1975) *Indirect speech acts. Syntax and Semantics 3: Speech Acts*, New York: Academic Press, pp265-277.
- サール .J.R 著 坂本百大・土屋俊訳 (1986) 『言語行為』勁草書房
- Spencer-Oatey Helen (2000). *Culturally Speaking, continuum*.
- (2002) *Managing rapport in talk: Using rapport sensitive incidents to explore the motivational concerns underlying the management of relations. Journal of pragmatics* 34, pp 529-545.
- 谷口龍子 (2007) 「日本語と中国語における詫びおよび感謝の表現、対象と機能の関わり」『社会科学ジャーナル』61 COE特別号、国際基督教大学
- (2009) 『詫びおよび感謝表現の日中対照分析—談話構造から見た機能とポライトネス—』国際基督教大学 博士論文
- 谷口龍子・榮谷温子 (2011) 「アラビア語のエジプト方言における詫びおよび感謝表現の語用論的機能」『横浜国立大学留学生センター教育研究論集 シンポジウム『エジプトにおける日本研究—過去、現在、未来』開催記念号』第19号、横浜国立大学
- 山口和代 (1997) 「留学生の発話行為と文化的要因に関する一考察—中国人および台湾人留学生を対象として」『異文化間教育』(異文化間教育学会) 11号 , pp125-140.
- (2002) 「ポライトネスに応じた言語形式と人間関係の認知—中国人ならびに台湾人留学生と日本人母語話者との比較の視点から—」『社会言語科学』(社会言語科学会) 第5巻第1号 ,pp75-84.
- 山梨正明 (1986) 『新英文法選書12発話行為』大修館書店
- Y.Samarah Abdullah.(2010).Views of Apology in linguistics:Examples of Arabic culture. *Journal of Language and Literature.No.3.pp.57-73.*

## The usage of “mafliṣṣ” in Arabic (Egyptian dialect) as a ritualistic strategy

Ryuko TANIGUCHI, Tokyo University of Foreign Studies

Haruko SAKAEDANI, Tokyo University of Foreign Studies

The aim of this paper is to investigate the pragmatic function of “mafliṣṣ”(in Arabic Egyptian dialect).

Data was collated based on the role-play method.

“mafliṣṣ” is used as: ① an apology ② an acceptance of apology ③ a mitigating factor for FTA(face-threatening acts) ④ deflection of somebody’s request.

In addition , it is also used not only to thank someone for his action but also to maintain the relationship by showing consideration for the burden to the person.

“mafliṣṣ” can be seen as a kind of ritualistic strategy (Goffman1971) used in the maintenance of relationships in Arabic (Egyptian dialect).

